

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-04	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	青少年委員事務費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	森屋・清水
				内線	3351		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-05-01	青少年委員事務費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		33年度	根拠	荒川区青少年委員設置要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	青少年委員が地域の子ども会や青少年団体、PTAへの活動支援を行うことにより、子ども達の体験活動が充実するとともに、地域の結び付きを深め、青少年が健全に育つ環境を醸成する。						
対象者等	①地域の子どもたち ②地域の青少年関係団体（荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会、青少年育成地区委員会等） ③小・中学校PTA						
内容	<p>【委員数】現員40名 【報酬】月額8,250円                  【身分】地方公務員法に定める特別職（非常勤職員）                  【委嘱】青少年の余暇指導及び青少年団体の育成に直接携わり、かつ相当な実績をあげつつある者                  【任期】2年間（6期まで再任可）                  【対象者】区内在住・在勤者で委嘱時に満60歳未満の者</p> <p>&lt;荒川区青少年委員連絡会&gt;・・・委員の自主組織（会長、副会長3名、会計2名、会計監査3名）                  【専門部会】総務部会、調査研修部会、広報部会                  【実践部会】少年団体育成部会、青年団体育成部会、校庭及び施設利用部会                  【地域部会】南千住、荒川・町屋、尾久、日暮里の4ブロック・・・青少年育成地区委員会事業への協力等</p>						
経過	昭和28年度 東京都青少年委員制度設置（総数265名：各区市町村から約5名選出、1地域500名で1名） 昭和30年度 各小学校区から1名を推薦・委嘱（総数500名余、任期2年） 昭和33年度 東京都荒川区青少年委員の設置に関する規則制定 昭和39年度 地方自治法一部改正により、事務が各区市町村に移管 平成2年度 青少年委員40人体制となる 平成25年度 青少年委員制度60周年記念行事実施 平成27年度 青少年委員城北ブロック研修会を荒川区で開催						
必要性	青少年の余暇指導や地域・学校との連携等、青少年教育の振興に果たす役割は大きい。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		5,766	5,399	5,667	5,771	5,775	5,616
①決算額（28年度は見込み）		5,006	4,983	5,167	5,187	5,313	5,199	5,753
②人件費等		7,988	7,622	6,196	9,149	8,498	8,466	
③減価償却費		2,760	2,799	2,420	3,718	3,576	3,754	
【事務分担当量】（%）		95	90	75	110	110	110	
合計（①+②+③）		15,754	15,404	13,783	18,054	17,387	17,419	5,753
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	15,754	15,404	13,783	18,054	17,387	17,419	5,753
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	青少年委員連絡会の実施事業数	16	17	20	18	19	20	-
	青少年委員連絡会の協力事業数	34	34	30	30	34	30	-

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	委員報酬	3,952	報酬	委員報酬	3,960	報酬	委員報酬	3,960
旅費	宿泊研修会旅費等	189	報償費	研修会講師謝礼	39	報償費	研修会講師謝礼	23
需用費	賄・消耗品・印刷等	707	旅費	宿泊研修会旅費等	210	旅費	宿泊研修会旅費等	365
役務費	委員保険料等	74	需用費	賄・消耗品・印刷等	418	需用費	賄・消耗品・印刷等	872
使用料等	宿泊研修会バス借上げ等	204	役務費	委員保険料等	113	役務費	委員保険料等	78
負担金補助等	都連合会分担金	186	使用料等	宿泊研修会バス借上げ等	323	使用料等	宿泊研修会バス借上げ等	302
			負担金補助等	都連合会分担金等	137	負担金補助等	都連合会分担金等	153

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	青少年委員連絡会定例会への出席率（％）	76.6	84.1	75.2	80	80	出席者数／（定例会数*40名）
②	参加（関連）事業総数（事業）	48	53	55	50	50	主催及び協力事業数
③							

（問題点・課題 指標分析）	①各地域の現状を踏まえた事業の実施検討 ②参加関連事業における出席率の向上 ③退任・委嘱年度における委嘱候補者や役員選定の円滑な実施
	（実施 19 区 未実施 3 区 不明 0 区） 平成27年度現在の委員数は、千代田24、中央24、港26、文京28、台東37、墨田26、江東46、品川30、目黒34、大田61、 *世田谷60、渋谷30、杉並41、北64、板橋58、練馬66、*足立106、葛飾73、江戸川62 ※「*」は、東京青少年委員会連合会（都連）に未加入を示す。
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	事業を実施する各部会の要職に経験者と若手の両者を選出し、積極的に意見交換のできる雰囲気を出す。	城北4区における研修会の実施にあたり、経験者と若手の意見交換・情報共有を図り、運営の円滑化を図った。	委嘱による新任委員を迎えたため、新しい委員の視点を活かした、充実した事業実施を目指す。
②	事業における実施内容の充実を目指して、委員のスキルアップを図る。	充実した事業実施のために、定例会時のミニ研修会等、委員相互の研鑽を充実させた。	27年度実施した研修を踏まえ、より一層充実した委員研修の拡充等を図る。
③	特に任期の切り替え時において、円滑な組織運営を支援していく。	実情がよくわかる地区ブロックごとに退任者の後任を推薦してもらい、実績のある委員を委嘱候補者として推薦した。	新任委員委嘱など、会全体の円滑な組織運営支援を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	青少年の健全育成に寄与しており、継続して実施する。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-05	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	優良青少年団体・個人表彰	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	渡辺
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-06-01	優良青少年団体、個人表彰					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		46年度	根拠法令等	荒川区優良青少年団体・個人表彰実施要綱		
終期設定	○有 ●無		年度				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	○計画 ●非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	青少年団体の健全育成と発展のため、特に優れている青少年団体及び団体活動に貢献してきた個人を表彰する。						
対象者等	1 日常活動が特に優れている少年団体及び青年団体 2 団体活動に貢献してきた個人						
内容	<b>【実施方法】</b> 1 荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会に表彰候補者の推薦を依頼 2 青少年委員連絡会の役員及び青少年育成部長により組織する審査委員会に諮問 3 審査会の答申を得て教育長が決定し、教育委員会が表彰する 4 子ども会大会、青年大会において表彰予定  <b>【審査委員会】</b> 青少年委員連絡会から8名（会長、副会長3名、会計2名、青年団体育成部長、少年団体育成部長）						
経過	・昭和40年 長谷川賞（初代 教育委員会教育委員・長谷川伊三郎氏が私財を投じて設置）が前身 ・昭和46年 教育委員会表彰となる ・平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施						
必要性	青少年団体とその団体活動に貢献してきた個人への表彰は、それまでの活動を賞賛するだけでなく、その後の活動にも多めに励みになっている。 青少年団体の活動を活性化するきっかけとして、この表彰の意義は大きい。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		34	34	28	34	38	37
①決算額（28年度は見込み）		9	18	17	18	18	18	39
②人件費等		523	423	496	416	464	462	
③減価償却費		174	156	194	169	195	205	
【事務分担量】（%）		6	5	6	5	6	6	
合計（①+②+③）		706	597	707	603	677	685	39
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		706	597	707	603	677	685
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	受賞者数（個人・団体）	1	2	2	2	2	2	4

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	記念品・筒・審査会賄	11	需用費	記念品・筒・審査会賄	11	需用費	記念品・筒・審査会賄	23
役務費	表彰状筆耕	7	役務費	表彰状筆耕	7	役務費	表彰状筆耕	16

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 団体表彰	1	1	1	2	2	
	② 個人表彰	1	1	1	2	2	
	③						

（問題点・課題分析）	青年団体の活動が低調であり、被表彰候補者の推薦が難しい状況にある。被表彰候補者の推薦が多くされるよう、青年団体の活性化が課題であると考え。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	様々な方面において、地域で活動する方の情報を収集し、推薦候補者の増加につなげる。	荒少連・荒青連に区内で活動する団体、人を広く推薦してもらうよう呼びかけた。	区内で活動する団体について情報収集を行うと共に、関連団体に対象者を把握し確実に推薦してもらうよう呼びかける。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	青少年の健全育成のために貢献する励みとともに、個人及び団体活動の活性化のきっかけとして必要であるため、継続して実施する。

況議 （要旨） 会 質 問 状	
--------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-06	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	青年団体リーダー研修会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	松本
				内線	3354		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）							
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 41年度		根拠				
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	区内の青年リーダーが、団体運営に必要な理論と実技を研修することにより、青年団体リーダーの資質を向上させると共に、青年団体活動の活性化につなげるようにする。						
対象者等	区内の青年団体のリーダー等						
内容	<p>区内の青年が、青年団体のリーダー等としての知識・資質を向上させ、自覚を持つきっかけとなるよう、区内の青年同士や他自治体の青年団体等と交流を図り、また資質・技術向上のための研修を行う。</p> <p>○平成23年度（平成24年3月21～22日、岩手県釜石市）は、成人の日のつどいの実行委員である青年の研修として、荒川区の友好交流都市であり、東日本大震災で甚大な被害を受けた釜石市を訪れた。被災地の現状を視察すると共に、「成人の日のつどい」で新成人が作成した「希望」の鶴文字のタペストリーを釜石市の青年に直接手渡し、荒川区と釜石市の青年の交流を図った。</p> <p>○平成24年度～25年度未実施 ○平成26年度（12月6～7日） 日本青年館で実施された研修に3名参加</p>						
経過	<p>【交流・研修場所等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11年度 長野県富士見高原</li> <li>・12年度 埼玉県荒川村</li> <li>・13年度 福島県福島市</li> <li>・14年度 新潟県吉川町</li> <li>・15年度 群馬県上野村</li> <li>・16年度 未実施</li> <li>・17年度 群馬県草津町</li> <li>・18年度 未実施</li> <li>・19年度 福島県小野町</li> <li>・20年度 福井県福井市</li> <li>・21年度 静岡県静岡市</li> <li>・22年度 群馬県前橋市</li> <li>・23年度 岩手県釜石市（区内青年である成人の日のつどい実行委員の研修として実施）</li> <li>・24・25年度 青年団体連合会の活動が厳しく、参加可能な青年リーダーの不足により未実施</li> <li>・26年度 青年団体連合会自主活動として実施（日本青年館で実施された研修に参加）</li> <li>・27年度 青年団体連合会自主活動として実施（中国青年団と静岡県青年団等の交流事業に参加）</li> </ul>						
必要性	青年リーダー候補者が他自治体の青年活動を知り、活動活性化につなげるためのリーダー研修会の必要性は高い。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		479	880	0	0	0	0
①決算額（28年度は見込み）		222	528	0	0	0	0	0
②人件費等		1,657	3,439	826	0	0		
③減価償却費		552	1,368	323	0	0		
【事務分担量】（%）		19	44	10	0	0		
合計（①+②+③）		2,431	5,335	1,149	0	0	0	0
特定財源	国							
	都							
	その他							
	一般財源		2,431	5,335	1,149	0	0	0
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	交流した自治体	群馬県前橋市	釜石市	なし	なし	なし(研修会)	中国・静岡・愛知・岐阜	未定
	参加者数	13	14	0	0	3	3	5

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 研修会参加者数（人）	0	3	3	5	5	
	② 青年団体連合会の加盟団体数	5	5	5	5	5	自主事業や青年大会を通じて、声掛けをしていく
	③						

問題点・課題 （指標分析）	①対象となる青年リーダーが加盟している荒川区青年団体連合会の活動実態にあわせ、より参加しやすい内容と実施方法を検討する必要がある。 ②青年団体連合会の会員のみを対象とせず、区の事業に参加した青年も対象とするなど、広く区内の青年リーダーの発掘や育成を目標とする新たな研修内容・方法を検討する必要がある。
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	青年団体連合会と協力し、研修を実施する。	中国の青年リーダー、岐阜、静岡、愛知の青年団との充実した交流研修会参加により、青年団体活動の活性化を図ることができた。	青年団体連合会と協力し、リーダーの資質を向上させる研修を実施する。
②	新たな青年リーダーが何を求めているか、企画から参加してもらい、より効果的な研修内容とする。	今後の参考とするため、他事業で関わった青年たちにどのような事業に興味を持っているか、アンケートを行った。	新たな青年と青年団体連合会の交流を勧め、研修に参加を希望する人を発掘する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	青年団体連合会への加盟団体及び団体構成員減少の解決のため、青年団体の新たな育成・支援策を検討するとともに、連合会以外の青年リーダーを発掘するため、継続して実施する。

況議 （要旨） 会質 問 状	H27 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について
----------------------------	-------------------------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-07	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	心身障がい者青年教室「さくら教室」	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	米山
							3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-07-01	心身障がい者青年教室					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 41年度		根拠	無し			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区立中学校特別支援学級卒業生及び在住・在勤の心身障がい者が、継続的・計画的な講座を受講することにより、余暇活動を充実させるとともに、自主性・社会性・協調性を身につけることができるようにするため支援する。						
対象者等	区立中学校特別支援学級卒業生及び区内在住・在勤の心身障がい者。						
内容	<p>知的障がい者の知識や技能の習得や余暇活動の充実、個性や特性を発揮する場の創設を目的に、教室を開催する。</p> <p>【会場】 荒川区立第一中学校他                  【日時】 年間17回、日曜日、午前9時15分～（半日または1日）                  【内容】 クラブ活動（パソコン・音楽・美術・調理・生花・スポーツ）、学級活動、校外学習                  水泳・室内レク、城北ブロック合同レクリエーション大会、お楽しみ会、作品展                  【協力】 保護者、手をつなぐ親の会、青少年委員、荒川区水泳連盟、障害者スポーツ指導員</p>						
経過	昭和41年度 特別支援学級の職業実習科卒業生を対象に開設（年22回） 昭和57年度 城北ブロック合同レクリエーション大会開始 平成14年度 作品展会場を区役所1階ロビーより町屋文化センターに変更 平成18年度 愛称名を「きょうようこうざ」から「さくら教室」に変更 平成22年度 スポーツクラブ新設し6クラブに。学級活動名称を毎年受講生が決定するように変更 平成24年度 お楽しみ会を旧真土小から生涯学習センターへ移行。手をつなぐ親の会の餅つき会中止 平成25年度 お楽しみ会で「クリスマス会」を開催。 平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課で、教育委員会事務の補助執行として実施 平成27年度 水泳レクにウォーキングを取り入れた。全小中学校のタブレットパソコン化に伴い、パソコンクラブを生涯学習センターに移行。 平成28年度 パソコンクラブを第一中学校のタブレットパソコンを活用して実施						
必要性	生涯学習の機会が少ない心身障がい者に対して、社会人として必要な自主性・社会性・協調性、教養を身につけることを支援する事業として必要である。 また、継続的に講座を行うことで、受講生どうしの交流を支援する事業としても必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 常勤、非常勤の他、民間講師やボランティアによって運営されている。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		2,271	2,176	2,296	2,217	2,241	2,267
①決算額（28年度は見込み）		2,097	1,857	1,942	2,100	1,929	2,062	2,460
②人件費等		10,360	9,651	9,047	9,670	4,233	10,193	
③減価償却費		5,229	5,443	5,486	6,861	3,186	6,997	
【事務分担当量】（%）		180	175	170	203	98	205	
合計（①+②+③）		17,686	16,951	16,475	18,631	9,348	19,252	2,460
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		17,686	16,951	16,475	18,631	9,348	19,252
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	延べ参加受講生数（人）	1,058	1,135	1,076	1,074	1157	1193	1242
	受講生数（人）	75	83	82	81	82	85	86

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	1,550	報償費	講師謝礼	1,620	報償費	講師謝礼	1,812
旅費	職員旅費	1	旅費	職員旅費	2	需用費	消耗品等	125
需用費	消耗品等	71	需用費	消耗品等	63	役務費	申し込みハガキ	70
役務費	申し込みハガキ	65	役務費	申し込みハガキ	69	使用料等	借上げバス、4区合同レク会場使用料等	453
使用料等	校外学習バス借上げ等	242	使用料等	校外学習バス借上げ等	307			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 受講生(人)	81	82	85	86	86	
	② 平均参加率(%)	78.1	83.7	82.6	85	85	各回参加率平均
	③						

問題点・課題 (指標分析)	・21年度より、区内中学校特別支援学級に加え、王子・墨田・足立特別支援学校や区内知的障がい者関連施設等に幅広く周知したところ、受講生が大幅に増加した。22年度にスポーツクラブを新設し、クラブ活動の選択肢を増やしたが、今後も引き続きプログラムの整備が必要である。 ・プログラム整備を進めるには、従事するスタッフが不足している。また、スタッフの高齢化により、若い世代のスタッフの育成が急務である。						
	他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)					

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	より幅広い年齢層に対応できるようなプログラムを検討する。	水泳のプログラムに水中ウォーキングを取り入れ、受講生20名が参加した。	アンケートを実施し、受講生のニーズを捉えてプログラムを検討する。
②	新たなスタッフの育成のため、体験ボランティアの受け入れを積極的に進め、体験終了者のスタッフ参加を促す。	体験ボランティア3名を受け入れ、うち2名がスタッフとして参加することとなった。	体験ボランティアの募集と、スタッフが柔軟に参加できるような参加方法について検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	心身障がい者の自主性・社会性・協調性を養うため、継続して実施する。

況議 (要 会 質 問 状)	
-------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-08	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	あらかわ青年大会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	米山
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-06-02	あらかわ青年大会					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 38年度		根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	青年活動等を活性化するために、青年たちが交流の場及び青年リーダーの育成の場として実施する「あらかわ青年大会」の事業実施を支援する。						
対象者等	あらかわ青年大会実行委員会（荒川区青年団体連合会加盟団体及び構成員が中心となって構成） ※大会参加（ステージ鑑賞など）は、区民一般						
内容	あらかわ青年大会実行委員会が、青年たちの交流や地域の活性化を目的として実施する事業に対して、事業費の全部または一部を補助する。  【実施内容】※平成23・24年度は未実施 ・平成21～22年度（10月）…「路まつり」として、尾久小学校校庭及び熊野前商店街において、ソーランやアカペラ、カッポレ、北豊島学園バトンクラブのパレード等を行った。 ・平成25～26年度（3月）…「アリストックvol.1、vol.2」として、あらかわ遊園アリスの広場において、各種音楽団体等が演奏を行う野音祭を実施した。 ・平成27年度（3月）…「アリストックvol.3」区内在住・在勤の出演者を公募し、より地域に密着し、バラエティに富んだ演目で実施した。出店者による「Y(焼きそば)-1グランプリ」を実施した。						
経過	平成21～22年度 「あらかわ路まつり」会場：尾久小及び熊野前商店街（平成23・24年度は未実施） 平成25年度 「アリストック」会場：あらかわ遊園・アリスの広場 ・荒青連加盟団体に限らず、区内等で活動している音楽団体による音楽祭形式で実施（9団体参加）。成人の日のつどい実行委員経験者（実行委員アドバイザー）の団体（2団体）が、初めて青年大会に参加（三味線、ギターデュオ）。 平成26年度 平成25年度の参加者が実行委員として加わったほか、区内小学校（赤土小）や文化団体（新開太鼓）も出演するなど、地域と交流を深める大会となった。 平成27年度 区内在住の青年が副実行委員長となり、あわせて司会を務めた。 ・区内在住・在勤の出演者を募集したところ、13団体の応募があり、オーディションの結果8団体が出演した（出演12団体のうち4団体は荒青連関係団体）。区内で活動する様々な団体が加わり、地域交流と活性化を図ることが出来た。						
必要性	荒川区の青年たちが一堂に会し、自分たちで企画する唯一のイベントであり、青年間の交流が図れる貴重な機会のため、必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		950	950	950	950	950	950
①決算額（28年度は見込み）		950	0	0	950	950	950	950
②人件費等		2,494	0	0	1,248	2,549	2,078	
③減価償却費		930	0	0	507	1,073	922	
【事務分担量】（%）		32	0	0	15	33	27	
合計（①+②+③）		4,374	0	0	2,705	4,572	3,950	950
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		4,374	0	0	2,705	4,572	3,950
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	参加者数	1,500	0	0	700	1,200	2,965	3,300
	出演団体数	15	0	0	9	12	12	12

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 出演団体数	9	12	12	12	12	実施時間に応じた出演者数とする
	② 実行委員数	60	60	60	60	60	
	③						

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の核となる荒川青年団体連合会の活動を活性化させる必要がある。</li> <li>・開催日について、秋を希望しているが、他のイベントとのバッティングに考慮する必要がある。そのため、年間予定を早く確認するとともに遊園と打ち合わせを行うこと。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	新しく実行委員となってもらえるような青年の参加を促す。	今後も参加したいとの声も挙がるなど、区内に広く出演者を公募したことにより区内団体とのつながりができ、活性化することができた。	区内青年団体等の発掘のため、出演者応募への周知協力や、区の事業の参加者（青年）とのコーディネートを行う。
②	一部自主財源で実施できるような方法を検討する。	実行委員会が協賛金を募り、自主財源とした。	自主財源である協賛金を集める期間を長くするため、実行委員会に早めの計画を立てるよう促す。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	青年の交流の場の提供及び新たな青年を育成する場、また、区民が楽しめるイベントを実施する事業として、継続して実施する。

況議 （要 会 質 問 状）	H27年 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について
-------------------------------	--------------------------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-09	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	成人の日のつどい	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	渡辺・安藤
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-06-03	成人の日のつどい					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 29年度		根拠	「成人の日の行事について」文部事務次官通達			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	(昭和31年12月10日)			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	成人に達した門出を祝福すると共に、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促す。また、実行委員となった新成人には、地域への愛着を強め、地域活動への関心を深めるきっかけとなるようにする。						
対象者等	<平成27年度>平成7年4月2日～平成8年4月1日生まれの方 <平成28年度>平成8年4月2日～平成9年4月1日生まれの方						
内容	平成27年度 平成28年1月11日（月・祝） 12:00～14:30 【内容】 第1部 記念式典 国歌斉唱、第四峡田小学校児童による合唱、主催者挨拶、成人の誓い 来賓祝辞、来賓紹介、主催者紹介 第2部 恩師からのVTR上映 第3部 ミニパーティー、書き損じハガキ回収、感謝ボード（メッセージボード） 【会場】 ホテルラングウッド 第1・2部：ラングウッドルーム 第3部：日暮里サニーホール・コンサートサロン  平成28年度 平成29年1月9日（月・祝） 11時30分～14時 サンパール荒川						
経過	昭和55年度 「成人の日のつどい実行委員会（企画・運営スタッフ会）」を新成人を募り設置。参加者自身の手で作り上げる方式を採用。区報で募集のほか、中学校等より推薦のあった新成人で構成。記念品の選定や、案内ハガキのデザイン、2部・3部の企画、運営を担当。 平成22年度 司会を実行委員ではなくセミプロに依頼し、また入場方法についても工夫した結果、式典の厳粛な実施が可能になった。なお、2部・3部については、実行委員による運営を実施。 平成23年度 成人式を終えた実行委員に「アドバイザー」として次年度以降の実行委員会に参加を促した。 平成27年度 サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場をラングウッドに変更したため、式典開始時間を例年より30分早め、11:30式典開始とした。 平成28年度 実施日について、前日（日曜日）開催を検討したが、対象者のアンケート等の結果を踏まえ、1月9日（月・祝）に実施することとした。						
必要性	新成人の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促すために必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） <平成27年度> 主催：荒川区・荒川区教育委員会・荒川区選挙管理委員会 協力：新成人実行委員11名・アドバイザー11名、青少年委員38名他						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		3,257	3,029	3,093	2,973	2,856	3,898
①決算額（28年度は見込み）		2,711	1,620	2,364	2,374	2,433	3,417	2,882
②人件費等		5,808	4,764	3,840	4,224	3,534	8,145	
③減価償却費		2,527	2,489	2,259	2,400	1,788	4,335	
【事務分担量】（%）		87	80	70	71	55	127	
合計（①+②+③）		11,046	8,873	8,463	8,998	7,755	15,897	2,882
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源	11,046	8,873	8,463	8,998	7,755	15,897	2,882
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	対象者（人）	1,813	1,811	1,687	1,735	1,879	1,834	1,967
	参加者（人）	960	972	860	888	935	919	1,180
	参加率（%）	53	54	51	51	50	50.1	60
	記念品	フォトフレーム	オリジナルタンブラー	シースルーアラームクロック	ステンレスマグカップ	木軸ボールペン・シャーペン	木製印鑑ケース	未定

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	46	報償費	謝礼	46	報償費	謝礼	144
需用費	記念品等	2,068	需用費	記念品等	2,107	需用費	記念品等	2,363
役務費	吊看板・立看板	98	委託料	会場設営委託料	294	役務費	吊看板・立看板	108
使用料等	会場使用料等	221	使用料等	会場使用料等	970	使用料等	会場使用料等	267

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 式典参加率（％）	51	50	50	60	60	参加数／対象者数
	② 公募数／実行委員数	5／14	3／13	12	8/15	8／15	27年度は公募数0名
	③ 実行委員会参加率	67	75	66	90	90	参加延べ数／実行委員数*回数

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人の日のつどいへの参加率は50%程度で推移しているが、さらに多くの新成人に参加してもらえるよう、周知及び内容の充実を図る必要がある。</li> <li>・実行委員の大多数が学校推薦の委員であるという現状が変化していない。自発的に参加する実行委員が多いほど実行委員会も活気あるものとなるため、実行委員募集の周知方法等について検討する。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 【27年度参加率（％）】千代田60、中央67、港51、新宿32、文京60、台東53、墨田55、江東66、品川55、目黒51、大田54、世田谷79、渋谷44、中野42、杉並48、豊島43、北51、板橋54、練馬64、足立58、葛飾62、江戸川64【記念品無】14区【実行委員会形式】15区

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	公募が増えるよう工夫すると共に、実行委員会の参加率が上がるよう改善していく。	委員経験者によるチラシ作成を行い後輩への声掛けを依頼した。又、実行委員が連絡を受けやすいよう携帯電話を活用するなど工夫した。	実行委員、アドバイザー等の意見を集め、公募方法や実施内容の充実、実行委員会開催日の検討をする。
②	アドバイザーに対し、成人の日のつどい終了後も地域活動への参加を促進する。	実行委員会の初回のアイスブレイクを依頼する等、アドバイザーの参画方法を工夫すると共に、区の事業を紹介し、参加を促した。	アドバイザーの交流会等を行い、地域団体とのコーディネートや地域活動への参加を促進する。
③	サンパール荒川の大規模改修に伴う会場変更のため、当日の受付方法、経路を検討し、スムーズな進行ができるよう努める。	当日業務に従事する職員数を増やした。また、インカムを使用して連絡をとりあうことにより、スムーズに進行できた。	改修済のサンパール荒川では初めて開催するため、改めて受付方法や経路を検討し、スムーズに進行できるよう努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	成人を祝うとともに、成人としての権利と義務、責任・自覚を促す事業として継続して実施する。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-10	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	吹奏楽コンサート	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	池内
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-06-04	吹奏楽コンサート					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		52年度	根拠	無し		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	○計画 ●非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区内の小・中・高校等の吹奏楽部や、卒業後も活動を続けている青少年に、日頃の練習成果の発表の場提供するとともに、区民が身近で音楽文化に触れる機会を提供する。						
対象者等	青少年及び一般区民						
内容	平成27年度 1 主催 吹奏楽のつどい実行委員会・荒川区 2 実施日 28年3月13日（日） 3 場所 日暮里サニーホール 4 参加団体 8団体 ① 社会人団体：3団体 ② 高等専門学校：1団体 ③ 高等学校吹奏楽部：1団体 ④ 中学校吹奏楽部：2団体 ⑤ 小学校金管バンド：1団体						
経過	昭和56年度 第1回「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」を自主事業として実施 3団体参加 昭和60年度 教育委員会の主催で「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」を実施 6団体参加 平成6年度 教育委員会と荒川区に吹奏楽を育てる会主催で実施 14団体参加 平成19年度 「吹奏楽のつどい実行委員会」の主催となる 平成22年度 東日本大震災のため中止 平成27年度 サンパル荒川の大規模改修のため、会場を日暮里サニーホールに変更。それに伴い2団体（峡田小・尾久六小）が出場を辞退（平成27年度のみ）。荒川ウインドアンサンブルは人数の関係で出場せず、スタッフとして参加 平成28年度 尾久六小が出演を辞退。実行委員会と協議し、区内の他の学校にも声かけを行う						
必要性	区内の吹奏楽団体に交流・成果発表の機会を提供することにより、荒川区の文化向上を図ることができるため、必要な事業である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		618	609	598	598	610	587	608
①決算額（28年度は見込み）		16	453	447	455	461	361	608
②人件費等		960	932	909	832	232	1,231	
③減価償却費		320	342	355	338	98	546	
【事務分担量】（%）		11	11	11	10	3	16	
合計（①+②+③）		1,296	1,727	1,711	1,625	791	2,138	608
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		1,296	1,727	1,711	1,625	791	2,138
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	出演団体数	0	10	11	11	11	8	11
	入場者数	0	945	900	830	880	700	800

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	ポスター等	13	需用費	ポスター等	13	需用費	ポスター等	19
委託料	照明等	63	委託料	舞台設営委託	35	委託料	舞台設営委託	67
使用料等	会場費・トラック	386	使用料等	会場費・トラック	314	使用料等	会場費・トラック	522

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 出演団体数	11	11	8	11	11	
	② 来場者数（延べ）	830	880	700	800	800	
	③						

（問題点・課題分析）	来場者が音楽文化に親しむことができるよう、「吹奏楽のつどい」のプログラムや内容等の充実を図ると共に、小中学校をはじめとした新規の参加団体を増やしていくことが必要である。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	実行委員会による運営が一層効率的に行われるよう、積極的に助言や支援をする。	実行委員会と密に連携を取ったことと、ウインドアンサンブルのメンバーによる協力により、当日の運営はスムーズに進んだ。	サンパール荒川に会場が戻るため、実行委員会との連絡を密にとりつつ、円滑な運営を努める。
②	参加団体が増えるよう、各学校や団体に声かけしていくと共に、参加しやすいような実施日程、会場などを検討する。	サンパール荒川大規模改修に伴う会場変更と団体都合により、参加団体が3団体減った。	実行委員と協議し、区立小中学校・都立高校だけでなく、区内の私立中学・高校にも声かけをする。
③	団体と調整を行いながら、不備のないよう当日の準備を進めていく。	会場がサニーホールで実施となったが、現地見学を行うなど各団体と調整を図り、滞りなく実施できた。	新規団体が増えた場合は、現地見学を含めた事前準備をしっかりと行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	青少年が交流しながら、音楽活動の成果を発表する場、および区民が音楽をとおして芸術文化に触れることのできる場として、継続して実施する。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-12	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	荒川区文化祭	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	池内
							3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-10-01	文化祭					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 27年度		根拠	無し			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区民が日頃研鑽を重ねている様々な文化活動の成果を、広く区民に発表する場を提供すると共に、更なる活動意欲の向上、文化の向上を図る。						
対象者等	各団体会員と区民一般						
内容	各団体（平成27年度は22団体）が、文化の日を中心に大会、展示会を行った。 ○日本舞踊大会（荒川区日本舞踊連盟） ○区民音楽会（荒川区音楽連盟） ○写真展（全荒川写真連盟） ○民踊大会（荒川区民踊連盟） ○謡曲大会〈観世流・宝生流〉（荒川区謡曲連盟） ○華道展・茶席（荒川区華道茶道文化会） ○俳句展示会（荒川区俳句連盟） ○囲碁大会（荒川区囲碁連盟） ○民謡大会（荒川区民謡協会） ○菊花展（荒川菊花会）○将棋大会（荒川区将棋協会） ○詩吟と剣舞の大会（荒川区吟剣詩舞道連盟） ○盆栽展（荒川盆栽山野草会）○盤景展（荒川盤景会） ○ソーシャルダンス大会（荒川区ソーシャルダンス連盟）○書道展（荒川区書道連盟） ○美術展（荒川区美術連盟） ○大太鼓盆踊り大会（荒川区大太鼓連盟） ○邦楽大会（荒川区邦楽連盟） ○バレエコンサート（荒川区洋舞連盟） ○歌謡大会（荒川区歌謡協会） ○さつき紅葉実物展（荒川区阜月会）						
経過	平成元年度 21団体参加 平成13年度 22団体参加 荒川区歌謡協会加盟 平成15年度 23団体参加 荒川区阜月会加盟 平成17年度 22団体参加 荒川区美術刀剣連盟退会（17年5月） 平成23年度 荒川区文化祭60周年記念行事（式典・子ども向け事業）実施 平成26年度 21団体参加 荒川史談会退会（26年5月）・俳句大会未実施 平成27年度 22団体参加 将棋協会加盟（27年5月） 平成28年度 21団体参加予定 荒川区民踊連盟退会（平成28年5月）						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動の成果を発表することにより、活動をさらに充実させる機会となっているため、必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 主催：荒川区・荒川区文化団体連盟 主管：連盟加盟各団体						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		6,536	7,129	6,294	6,029	6,146	5,608
①決算額（28年度は見込み）		5,665	6,514	5,398	5,446	5,477	5,063	6,149
②人件費等		6,645	6,455	6,444	7,319	5,639	7,465	
③減価償却費		2,411	2,581	2,840	2,974	2,373	3,311	
【事務分担当量】（%）		83	83	88	88	73	97	
合計（①+②+③）		14,721	15,550	14,682	15,739	13,489	15,839	6,149
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		14,721	15,550	14,682	15,739	13,489	15,839
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	出演・参加者数	2,246	2,621	2,460	2,657	1,913	2,007	3,000
	出品者数	956	2,105	1,684	1,550	1,678	1,080	2,000
	参観者数	16,484	16,307	13,987	15,589	16,573	17,272	20,000

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	212	報償費	講師謝礼	212	報償費	講師謝礼	299
需用費	プログラム等	561	需用費	プログラム等	590	需用費	プログラム等	695
役務費	筆耕料・保険料等	348	役務費	筆耕料・保険料等	356	役務費	筆耕料・保険料等	423
委託料	会場設営委託	969	委託料	会場設営委託	969	委託料	会場設営委託	1,002
使用料等	会場使用料等	3,387	使用料等	会場使用料等	2,936	使用料等	会場使用料等	3,730

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 参加者・観覧者数	19,796	20,164	20,359	25,000	25,000	
	② 大会&展示会数	24	21	22	21	21	26年度 史談会・俳句大会未実施 27年度 将棋協会参加
	③						

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者や観覧者が固定化する傾向にあるので、広く区民に周知する必要がある。</li> <li>団体構成員の高齢化が進み、文化団体を退会する団体も出てきている。伝統文化親子教室、文化総合講座の参加者を積極的に取り込み、団体の活性化を図る必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 区の主催・後援による文化発表会等を含む

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	文化団体と協議しながら、より効果的な周知方法を検討する。	区のフェイスブックを利用し、文化祭について周知した結果、会場の変更に関わらず、多くの入場があった。	フェイスブックに加え、ツイッターなどのSNSを利用し、若い世代に対して文化祭の周知を行う。
②	文化活動に関心を持つ子ども・保護者への、より積極的な働きかけを行う。	文化祭の中で、伝統文化親子教室の参加者の作品展示を行った。	文化活動に関心を持つ子どもだけでなく、家族での参加が増えるよう努める。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	文化団体連盟が中心となり、区民の文化向上のために寄与しているため、継続して実施する。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-13	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	文化団体連盟補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	池内
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-10-02	文化団体連盟補助					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成	39年度	根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	○有 ●無	年度	法令等	荒川区文化団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	区民の文化向上のために実施する事業を奨励し、文化活動の中心的な役割を果たしている文化団体を統括する団体（荒川区文化団体連盟）に対し支援する。						
対象者等	荒川区文化団体連盟 加盟団体（21団体）						
内容	目的を達成するため、次の事業に対し補助金を交付する。 （1）加盟各文化団体相互の親睦と情報の交換 （2）文化祭等、行事への参加または協力 （3）その他、目的達成のために必要な事業 【加盟団体】21団体（平成28年度） ○荒川区日本舞踊連盟 ○荒川区音楽連盟 ○全荒川写真連盟○荒川区謡曲連盟 ○荒川区華道茶道文化会○荒川区俳句連盟 ○荒川区囲碁連盟○荒川区民謡協会○荒川菊花会 ○荒川区吟剣詩舞道連盟○荒川盆栽山野草会○荒川盤景会 ○荒川区ソーシャルダンス連盟 ○荒川区書道連盟 ○荒川区美術連盟 ○荒川区大太鼓連盟○荒川区邦楽連盟○荒川区洋舞連盟 ○荒川区歌謡協会 ○荒川区皐月会 ○荒川区将棋協会 ※平成28年度 民踊連盟脱退						
経過	平成元年度 21団体加盟 平成13年度 22団体加盟 荒川区歌謡協会 加盟 平成15年度 23団体加盟 荒川区皐月会 加盟 平成17年度 22団体加盟 荒川区美術刀剣連盟 脱退 平成26年度 21団体加盟 荒川史談会 脱退 平成27年度 22団体加盟 荒川区将棋協会 加盟 平成28年度 21団体加盟 荒川区民踊連盟 平成28年5月総会にて脱退						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動を支援し、充実させることにより区全体の文化史振興を図るため必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980
①決算額（28年度は見込み）		1,980	1,980	1,980	1,980	1,890	1,980	1,980
②人件費等		960	932	909	832	2,318	462	
③減価償却費		320	342	355	338	975	205	
【事務分担量】（%）		11	11	11	10	30	6	
合計（①+②+③）		3,260	3,254	3,244	3,150	5,183	2,647	1,980
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		3,260	3,254	3,244	3,150	5,183	2,647
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	団体数	22	22	22	22	21	22	21

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化振興補助金	1,890	負担金補助等	文化振興補助金	1,980	負担金補助等	文化振興補助金	1,980

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
①	連盟加盟団体数	22	21	22	21	21	H26史談会脱退 H27将棋協会加盟 H28民謡連盟脱退
②							
③							

（問題点・課題 指標分析）	団体の役員及び所属会員が高齢化しているため、積極的に新会員の加入促進を図る必要がある。						
	他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 文化団体等への補助等を含む					

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	文化団体をPRするホームページの新規ページを作成するなど、会員の加入促進につながるよう協力し、団体の活性化を図る。	文化団体をPRするホームページの新規ページを作成し、会員の加入促進につながるよう協力した。	文化団体PR用のページをさらに充実し、会員の加入促進を図る。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	文化団体を支援することにより、区民の文化の向上に寄与していることから継続した支援を行う。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--



予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 受講率（%）	59	55	61	70	70	受講生／定員
	② ジュニア向け講座受講率（%）	36.5	35	69	70	70	受講生／定員
	③						

問題点・課題 （指標分析）	定員を下回る講座があり、日本の伝統的文化の継承の意義とコストから、実施内容を検討していく必要がある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	子どもの参加者を増やすとともに伝統文化の継承を図っていく。	文化団体による講座内容の充実や周知に力を入れた結果、ジュニア講座の参加者が増加した。	ジュニア講座の参加者が継続して増えるよう、講座の充実や周知に力を入れる。
②	文化の継承を図りながらも、より区民のニーズに沿った講座が開設されるよう団体と協議を行っていく。	社交ダンス講座を開設し、講座数を30講座とした。	受講率を増加させるために、講座内容や周知方法について、団体と協議を行っていく。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	多様な区民の文化向上のための講座を実施している。

況議 （要 会 質 問 状	
------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-15	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	女性団体補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	安藤
							3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-11-01	女性団体補助					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 39年度		根拠	荒川区補助金等交付規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	女性団体が行う生涯学習関係事業を奨励し、団体の育成と地域活動を活発化するための支援を行う。						
対象者等	女性団体						
内容	荒川区女性団体の会加盟団体のうち5団体の活動に対して補助を行う <補助団体> 平成28年4月現在 (団体名) (代表者) (会員数) 三河島母の会 小沢 よし子 77名 尾久母の会 阿久津 敬子 300名 日暮里母の会 上村 詳子 65名 荒川区婦人学級連絡会 大久保 幸子 11名 荒川区更生保護女性会 遠田 茂子 610名						
経過	<補助団体数> 平成12年度～ 6団体（○荒川区女性団体の会が文化青少年課へ移管された） 平成16年度～ 6団体（○荒川区更生保護婦人会が荒川区更生保護女性会に団体名変更） 平成23年度～ 5団体（○南千住母の会が休会）						
必要性	女性団体の行う地域事業は、地域の交流を深め、また生涯学習の発展につながっている。そのため、今後とも女性団体の活動の支援が必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		600	500	500	500	500	500
①決算額（28年度は見込み）		600	500	500	500	500	500	500
②人件費等		174	306	301	224	291	689	
③減価償却費				226	135	163	512	
【事務分担当量】（%）		2	7	7	4	5	15	
合計（①+②+③）		774	806	1,027	859	954	1,701	500
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		774	806	1,027	859	954	1,701	500
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	補助団体数	6	5	5	5	5	5	5

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 補助団体数	5	5	5	5	5	
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	<p>会員の高齢化が進んでいるため、若年層の加入促進が課題である。また、地域活動の活性化の観点から、団体数についても、現状の5団体からさらに増加していくことが望ましい。</p>
	<p>他区の実況 (実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区) 千代田区、港区が団体補助または事業補助を実施。</p>

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	家庭教育講座への協力を呼びかけ、地域における生涯学習の推進を図る。	家庭教育講座への協力により、地域における生涯学習の推進に寄与した。	地域交流の一層の活性化を図るため、引き続き、家庭教育講座等の生涯学習事業への協力を呼びかける。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	地域活動や生涯学習の推進に寄与しており、継続した支援を行う。

況 (要旨) 議 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-16	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	青年団体連合会補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	米山
							内線
							3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-11-02	青年団体連合会補助					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成	48年度	根拠	荒川区補助金交付金規則			
終期設定	○有 ●無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	12	生涯学習活動の支援				
目的	青年団体が行う社会教育関係事業を奨励し、団体の健全な育成のために、自主的な団体活動を支援する。						
対象者等	荒川区青年団体連合会						
内容	青年団体の連合体である荒川区青年団体連合会の活動に対し、補助する。 【青年団体連合会加盟団体】 5団体 ・ふるさと荒川ふれあい広場 ・ユージェンタクローズクラブ ・荒川区商連青年部 ・M u - k y o c a ・D r e a m s あらかわバンド会 【活動状況】（22～23年度 活動なし） ・25年度 総会、スポーツ大会（フットサル大会）、あらかわ青年大会等 ・26年度 総会、スポーツ大会、あらかわ青年大会等 ・27年度 総会、スポーツ大会、あらかわ青年大会等						
経過	昭和43年度 荒川区青年団体連合会結成（40団体・400人参加） 都内で8番目の青年団体連合体 平成10年度 結成30周年記念事業として「フレンドシップ神津島」を実施 平成20年度 結成40周年を迎えた 平成23・24年度 団体活動の継続が難しくなり、「あらかわ青年大会」を実施見合わせ 平成25年度 「あらかわ青年大会」復活（詳細は「あらかわ青年大会」のシートを参照）						
必要性	荒川区青年団体連合会は、加盟団体数は減少しているものの、都内唯一の青年団体連合会である。今後、自主財源を安定して確保できるようになるまで、青年団体活動を活性化していくためにも、補助は必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		257	257	257	257	257	257
①決算額（28年度は見込み）		257	0	181	257	257	257	257
②人件費等		960	169	909	3,327	232	231	
③減価償却費		320	62	355	1,352	98	102	
【事務分担量】（%）		11	2	11	40	3	3	
合計（①+②+③）		1,537	231	1,445	4,936	587	590	257
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		1,537	231	1,445	4,936	587	590	257
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	加盟団体数	10	10	5	5	5	5	5

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	青年団体連合会補助金	257	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 加盟団体数	5	5	5	5	5	自主事業及び青年大会等で新規団体への声掛けをしていく
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>余暇活動の多様化などにより、青年が団体で活動することが少なくなっており、青年団体連合会に加盟している団体数も増えていないため、活発な活動が難しい。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	活動している青年団体や団体活動をしていない青年層を発掘し、加盟団体等を増やす。	平成27年度青年大会において、区内団体の出演者を公募したところ、多くの団体とのつながりが生まれた。	区内団体や青年達が、荒青連へ参加するきっかけを持てるよう、応募の周知協力や事業に参加した青年達との調整を行う。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	青年団体連合会を支援することにより、青年による地域活動の発展に寄与していることから、継続した支援を行う。

況議 (要旨) 会質 問状	H27年 2月会議 子ども・若者対策としての「若者の集い」の開催について
------------------------	--------------------------------------



予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 加盟団体数（団体）	20	16	17	14	14	
	② 個人会員数（名）	125	124	130	125	125	
	③ シニアリーダー数（名）	19	12	13	12	12	

問題点・課題 （指標分析）	補助団体である荒少連は、子どもの体験活動等に広い知識と実績を持つ育成者の団体であるが、近年、地域で子どもを育てるという意識が薄れている現状から、加盟団体及び個人会員数が年々減少傾向にある。子ども達が安全な体験活動を実施するためには、育成者である会員数が増加するよう、加盟対象となる団体の発掘・声掛けや、活動のPRなどの支援が必要である。
	（実施 8 区 未実施 14 区 不明 0 区） 東京都子ども会連合会加盟団体数(27年度) 加盟せず、「協議会」という形で活動している区もあり

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	少年育成活動を行う団体についての情報収集を行うと共に、団体の魅力をPRし、加盟団体・個人の増加につなげる。	活動における会場確保や、PRチラシの配布などの支援を行った。	加盟対象の団体について情報を収集するとともに、団体のPRにも力を入れ、会員の増加を支援する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	子ども体験活動を支えている団体へ支援することにより、青少年の健全育成に寄与していることから継続した支援を行う。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-18	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	人権教育推進費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	萩原 内線 3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-12-01	人権教育推進費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 48年 年度		根拠	人権教育及び人権啓発の推進に関する法			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区人権推進指針			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	区民が人権問題についての学習機会を得ることにより、基本的人権を尊重することの大切さを正しく理解すると共に、気づきから実際の態度や行動につながることを目的とする。						
対象者等	区民一般						
内容	<p>平成26年度 「見えない世界の子どもを守る～ネットトラブルの現状とその対応」</p> <p>①小学生保護者向け 23名参加</p> <p>②中学生保護者向け 13名参加</p> <p>講師：東京都青少年対策本部ファミリーール</p> <p>平成27年度 戦後70年企画 戦争体験記録講座「平和の大切さを伝えるために」 全4回</p> <p>第2回 講義 ひとり一人の戦争体験を記録する意義と方法</p> <p>講師 すみだ文化郷土資料館 学芸員 田中禎昭</p> <p>第1回・3回・4回 思いを語り合う・記録を作成する</p> <p>協力 荒川シルバー大学 荒川の歴史を楽しむ会あらかた NPO法人粋と縁他</p> <p>平成28年度 記録誌作成</p>						
経過	<p>～平成9年度 部落解放同盟荒川支部（以下「支部」と略す）に対して補助金を交付</p> <p>平成10年度 一部の事業について支部と共催で実施</p> <p>平成13年度 サマーキャンプと女性交流研修を廃止</p> <p>平成14年度 デイキャンプ、地域交流教室（子ども会）、青年スポーツ交流会、地域交流教室、同和教育及び補助金等については、以後一般施策化</p> <p>平成22年度 「子どもの人権」をテーマに「みんなで人権を考える講座『CAPワークショップ』」を、年1回、4年かけて全地区で開催することを決定</p> <p>以降、22年度南千住地区、23年度日暮里地区、24年度尾久地区、25年度峡田地区で開催</p>						
必要性	すべての人々の人権が尊重される社会の実現のために必要である。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		104	98	98	98	98	98
①決算額（28年度は見込み）		70	68	74	70	0	3	95
②人件費等		923	1,204	1,180	1,447	618	1,000	
③減価償却費		465	654	678	1,690	260	444	
【事務分担当量】（%）		16	21	21	50	8	13	
合計（①+②+③）		1,458	1,926	1,932	3,207	878	1,447	95
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		1,458	1,926	1,932	3,207	878	1,447	95
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	講座数	1	1	1	1	2	1	1
	参加者数	45	60	44	50	36	55	50

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	0	需用費	講座用消耗品	3	報償費	講師謝礼	90
需用費	講座用消耗品	0				需用費	講座用消耗品	5

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 講座の参加者数	50	36	55	50	60	
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢や区内の状況等を踏まえ、緊急性の高いテーマの内容を実施する必要がある。</li> <li>・テーマに関心のある区民が参加できるよう事前の十分な周知が必要。</li> </ul>
	<p>（実施 12 区 未実施 10 区 不明 0 区）</p> <p>東京都教育庁地域教育支援部の人権教育事業実施状況調査（H24 H23度実績）より。 ※教育委員会以外の調査は反映されていない</p>

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	社会情勢等を踏まえた、新たな講座を企画・実施する。	戦後70年の節目に、戦争体験を語り合い、記録する講座を開催し、貴重な体験と平和への想いを伝える機会として多くの参加があった。	自然災害等が頻発する状況を踏まえ、災害時、避難後の弱者への対応を人権の視点から考える講座を実施する。
②			必要な区民に情報が届くよう、企画にあたり関連する部署、団体などと連携し内容、周知方法等を検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	区民の人権教育を推進するため、継続して実施する。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-19	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	社会教育サポーター	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	萩原 内線 3359
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-13-01	社会教育サポーター					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 17年度		根拠	荒川区社会教育サポーター設置要綱（平成26年度制定）			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	生涯学習活動に関する知識、技能、経験を持つ区民が、社会教育関係団体、地域団体などが行う学習活動等を支援することで、青少年の健全育成や様々な区民の生涯学習に対するニーズに応えると共に、自らの学びを地域に活かす機会を提供する。						
対象者等	①地域団体（町会・女性・高齢者・青少年対策地区委員等） ②社会教育団体（青少年委員・PTA・文化・伝統工芸技術・少年・青年等） ③前記団体・教職員等のOB ④知識・技術・経験をもつ地域活動に関心をもつ18歳以上の区民						
内容	<p>【サポーターの登録】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習に関する知識、技能、経験を持ち、青少年や地域のために、自らの学びを活かし活動することを希望する18歳以上の区民を、社会教育サポーターとして登録する。</li> <li>毎年度、登録継続希望の有無を確認し、継続希望のサポーターを、ボランティア保険に加入する。</li> </ul> <p>【サポーターの派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>派遣団体の依頼により、生涯学習課がコーディネートする。社会教育サポーターは、生涯学習を進める団体の求めに応じ、講師、活動支援、託児等の活動を行う。</li> </ul> <p>【全体会実施】 平成27年度 講義とワークショップ 講師：大山くまお「わたしの活動PR大作戦」</p> <p>【活動の周知】 平成27年度あらかわ福祉まつり活動紹介ブース・ステージで活動紹介</p>						
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度 区内の青少年団体等に、活動の指導・助言を行うことにより、青少年の健全育成と活動の活性化を図ることを目的に、教育委員会事務局社会教育課の社会教育事業として事業開始</li> <li>平成19年度 社会教育サポーター通信の発行を開始</li> <li>平成21年度 要綱改正。青少年団体以外の派遣依頼が増えたため、対象を生涯学習全般に拡大また、子育てサポーター講習修生の活動の場とともに、子育て世代の生涯学習機会の拡充を図るため、活動分野に「託児」を加えた</li> <li>平成26年度 組織改正により、地域文化スポーツ部生涯学習課の生涯学習事業として、要綱策定 東京都地域福祉推進区市町村包括補助事業に申請し、対象経費2分の1の補助金交付</li> </ul>						
必要性	学習成果を地域に生かす取り組みとして、「荒川区生涯学習推進計画」の重点目標「地域活動を担うネットワークづくり」に欠かせないものであり、多様化する区民の生涯学習に関するニーズに応えるためにも、必要性は高い。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		114	109	143	104	88	114
①決算額（28年度は見込み）		60	43	49	23	46	89	97
②人件費等		1,273	1,378	1,444	1,161	1,955	1,838	
③減価償却費		1,017	1,244	1,323	913	1,626	1,331	
【事務分担当量】（%）		35	40	41	27	50	39	
合計（①+②+③）		2,350	2,665	2,816	2,097	3,627	3,258	97
特定財源の推移	国							
	都	地域福祉推進区市町村包括補助					35	48
	その他							
	一般財源		2,350	2,665	2,816	2,097	3,627	3,223
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	社会教育サポーター登録数	120	133	125	125	127	133	135
	社会教育サポーター活動数	64	66	42	83	92	135	150

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	23	報償費	講師謝礼	25	報償費	講師謝礼	26
需用費	消耗品等	6	需用費	消耗品等	11	需用費	消耗品等	26
役務費	ボランティア保険	17	役務費	ボランティア保険	36	役務費	ボランティア保険	45
			償還金利子等	都補助還付金	17			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 登録者数	125	127	133	135	135	
	② 活動数(延べ)	83	92	135	150	150	
	③						

問題点・課題 (指標分析)	①サポーター制度についての周知が十分でない。 ②毎週のように依頼する団体への派遣ルールの見直しが必要。 ③サポーター活動の主旨を理解しておらず、無料で活用できる人材派遣として対応する依頼者がいる。
	他区の実況 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区) 人材バンク、講師派遣制度等類似制度はあり

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	HP等に活動の内容などを紹介すると共に、活動の主旨についても周知していく。	利用依頼があった時に事業の主旨について説明すると共に、可能な限り立会い状況を確認し、必要があれば再度調整を行った。	活動依頼書や実績報告書の提出等ルールの順守を徹底する。
②	「福祉まつり」でPR・体験コーナーを開設する。	「福祉まつり」で活動紹介ブースを設置し、来場者にチラシを配布。ステージでは実演と共に活動紹介を行った。	荒川コミュニティカレッジ学園祭、荒川福祉まつりで実演と制度をPRし、活動を多くの区民の知ってもらう。
③	サポーターの活動成果を把握する。	サポーター利用団体に、その後のつながり等をヒアリングし活動状況を把握する。	活動状況並びにニーズを把握し、サポーター制度のより有効な活用方法を検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	地域の人材を活用することで、青少年の健全育成や生涯教育の振興につなげることができ、合わせて区民が学びを地域に活かすきっかけとして必要であり、引き続き推進する。

議 会 要 旨 状	H19 区民人材の活用方策について
-----------------------	-------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-20	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村		
		担当者名	安藤	内線	3352		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-01	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 58年度		根拠	荒川区立清里高原ロッジ条例、荒川区立清里高原少年自然の家条例、両条例施行規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	[ロッジ] 区民が、豊かな自然環境の中で荒川区ではできない体験をしたり、交流を深めたりすることにより、心身の健康増進を図る。 [自然の家] 豊かな自然環境の中での集団生活を通じて、明日を担う少年の豊かな情操と自律、協同の精神を養い、創意と活力にあふれる人間形成を図る。						
対象者等	1 荒川区内の青少年団体その他の社会教育関係団体（文化・スポーツ・自然観察・野外活動） 2 区立小・中学校（移動教室・夏期学園等の教育活動） 3 区内在住者、区内在勤者及びその家族等（文化・スポーツ・自然観察・野外活動）						
内容	【開設】昭和58年4月15日【所在地】山梨県北杜市高根町清里3545-5 【定員】ロッジ35名、少年自然の家200名 【宿泊室】ロッジ 12畳5室、9畳(ベッド)1室、研修室洋間55㎡(34畳)、談話室、食堂、浴室 自然の家 24.5畳10室、研修室24.5畳1室、リーダー室10畳2室・8畳2室、食堂、浴室、体育室 【土地】32,322㎡ 【構造】鉄筋コンクリート造2階建 【建物】延3,999.96㎡(ロッジ809.99㎡、自然の家3,189.97㎡) 【面積比】ロッジ：自然の家=2：8 【休業日】① 1月1日から4月28日（当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直前の金曜日）まで。 ② 11月5日(当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直後の月曜日)から12月31日まで。 (平成28年度の開設は、4月29日から11月6日まで)						
経過	昭和58～13年度 高根町に管理委託（10年間×2回） 平成14年度～ (株)ニッコトラストに業務委託 平成18～20年度 指定管理者(株)ニッコトラスト（公募） 平成21～23年度 指定管理者(株)ニッコトラスト（更新） 平成24～26年度 指定管理者ニッコトラスト・尾瀬林業プロジェクト（公募） ※平成25年7月1日 ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクトに変更 平成27～29年度 指定管理者ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクト（更新）  <参考>平成27年6月、荒川区と北杜市との間で「災害時相互応援協定」が締結され、大規模災害時の拠点施設に位置付けられた。						
必要性	荒川区内では体験することが難しい自然とのふれあいや、小中学校の校外活動を行う場としての役割は大きい。						
実施方法	（3委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 指定管理者：ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクト						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	75,546	64,335	60,358	56,982	56,109	62,551	59,147	
①決算額（28年度は見込み）	66,290	62,197	58,421	56,891	56,102	61,159	59,147	
②人件費等	2,616	2,964	3,717	3,743	3,476	3,463		
③減価償却費	872	1,089	1,452	1,521	1,463	1,536		
【事務分担量】（%）	30	35	45	45	45	45		
合計（①+②+③）	69,778	66,250	63,590	62,155	61,041	66,158	59,147	
特定財源	国	0	0	0				
	都	0	0	0				
	その他	11,975	10,000	7,000				
	一般財源	57,803	56,250	56,590	62,155	61,041	66,158	59,147
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	一般利用者（人）	2,065	1,857	1,813	1,467	1,646	1,757	—
	学校利用者（人）	8,471	7,664	8,462	8,318	8,499	6,889	—

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	管理運営指導等旅費	149	旅費	管理運営指導等旅費	144	旅費	管理運営指導等旅費	155
委託料	指定管理料	52,738	需用費	家屋等修繕費	5,480	委託料	指定管理料	55,826
使用料等	土地賃借料	2,548	委託料	指定管理料	51,015	使用料等	土地賃借料等	3,166
備品購入費	業務用冷蔵庫、プロジェクター等	666	使用料等	土地賃借料等	2,846			
			備品購入費	スチームコンベクションオープン	1,674			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 利用人数（人）	9,785	10,145	8,646	9,500	9,500	延べ利用者数
	② 宿泊部屋移動率（%）	36	34.8	34.6	38	38	利用部屋数／移動部屋数
	③ 利用者1人当たりの維持管理コスト（円）	7,754.5	7,665	7,073	6,226	6,226	決算額／利用者数（算出決算額は工事等臨時経費を除いた額）

（問題点・課題分析）	①開設から33年が経過しており、施設、設備を含めた計画的修繕が必要である。 ②夏期学園休止に伴い、夏季期間における一般利用率の向上が課題である。 ③学校利用時における食物アレルギー対応について、事故防止を図る必要がある。
	（実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区） 社会教育施設のうち宿泊施設を有する区
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	不具合の生じている施設・設備について、計画的な工事・修繕を実施する。	屋根等の大規模改修工事を計画的に実施するとともに、畳や客室の襖・床板、体育館床といった内装についても修繕を行うことができた。	施設の法定点検や日常点検を確実に実施し、不具合等が確認された場合は迅速に修繕等の対応を行う。
②	新たなパンフレットの製作など、PR方法を充実するとともに、事業内容の改善を図る。	新たなパンフレットを製作しPRを図るとともに、指定管理者の自主事業として区と協同でバスツアーを実施し、利用者増加に努めた。	夏季期間の利用率向上を図るため、指定管理者と一体となって施設の魅力をPRし、新たな自主事業の実施を検討する。
③	光熱水費等について、利用者の理解を得ながら、経費節減に努める。	主に光熱水費等について、利用者にも節電協力を促すなど、経費節減に努めた。	学校利用時における食物アレルギー対応について、マニュアルに沿った料理提供を徹底するなど、事故防止に努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	区民の健康増進の場、児童生徒の自然体験活動の場を提供するため必要であり、継続して実施する。

況議 （要 旨） 問 状	・H27年6月会議 トイレの洋式化について
--------------------------	-----------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-21	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	町屋文化センター管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	清水
				内線	3352		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-01	町屋文化センター管理運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 63年度		根拠	荒川区立町屋文化センター条例、同施行規則			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	12 生涯学習活動の支援					
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習、文化の欲求を満足させる機会をつくるとともに、学習、文化活動の推進を図る。						
対象者等	荒川区内在住・在勤・在学者						
内容	<p>【開設】 昭和63年11月1日</p> <p>【所在地】 荒川区町屋7-20-1</p> <p>【土地面積】 4,137.28㎡（イーストヒル町屋）の一部</p> <p>【延床面積】 2,400㎡</p> <p>【構造】 鉄筋コンクリート造3階建</p> <p>【施設面積】 多目的ホール188.80㎡（椅子席154名収容）、音楽練習室60.78㎡、ふれあい広場480.41㎡</p> <p>第1会議室64.08㎡（36名収容）、第2会議室65.61㎡（33名収容）</p> <p>第3会議室68.57㎡（45名収容）、第4会議室 74.47㎡（45名収容）</p> <p>【利用時間】 午前9時～午後10時</p> <p>【主な事業】 カルチャー講座、自主事業（一日文化体験）等</p>						
経過	<p>昭和63年11月 施設管理・運營業務を（財）荒川区地域振興公社（ACC）に委託</p> <p>平成18～20年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者として管理運営（公募）</p> <p>平成21～23年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者（更新）</p> <p>平成24～26年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（特命）</p> <p>平成27～29年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（更新）</p> <p>* 東日本大震災の影響による電力不足対策として平成23年3月12日～5月15日の間、夜間利用を休止した。</p>						
必要性	カルチャー講座や文化総合講座の実施、施設の貸出し等、区民の生涯学習のニーズに合った施設であるため必要性は高い。						
実施方法	（3委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 指定管理者：公益財団法人 荒川区芸術文化振興財団						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		35,933	68,465	60,453	38,075	38,601	47,491
①決算額（28年度は見込み）		35,933	38,235	50,448	38,075	38,565	45,161	39,674
②人件費等		2,180	2,117	2,478	2,911	1,931	1,924	
③減価償却費		726	778	968	1,183	813	853	
【事務分担当量】（%）		25	25	30	35	25	25	
合計（①+②+③）		38,839	41,130	53,894	42,169	41,309	47,938	39,674
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		38,839	41,130	53,894	42,169	41,309	47,938
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	多目的ホール（利用件数）	1,125	1,052	1,073	1,098	1,160	1,133	-
	音楽練習室（利用件数）	1,187	1,109	1,188	1,114	1,161	1,197	-
	第1～4会議室（利用件数）	3,536	3,436	3,580	3,736	3,793	3,745	-
	ふれあい広場（利用件数）	326	326	339	336	300	315	-

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	23,342	需用費	パネル付属品等購入	846	役務費	空調機等点検	125
備品購入費	展示用パネル	156	役務費	パネル等運搬費	93	委託料	指定管理料	24,257
負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068	委託料	指定管理料	24,192	備品購入費	展示パネル	224
			備品購入費	パネル、防犯カメラ等購入	4,962	負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068
			負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
①	施設稼働率（％）	74	76	74	77	77	利用件数/利用可能数
②	利用者数（人）	188,547	183,743	185,624	190,000	190,000	延べ利用者数
③	カルチャー講座受講者数（人）	5,070	4,784	4,684	5,000	5,000	延べ受講者数

（問題点・課題分析）	課題として次の2点が挙げられる。①カルチャー講座は、講師や受講者の高齢化や不安定な景気の状態等が要因となり、受講者数が減少傾向にある。②開設から28年を経過しているため、設備や備品の老朽化・劣化等が生じ、施設としての安全性や快適さという点では十分とはいえない。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 文化センター、コミュニティセンター等の生涯学習施設

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	不具合の生じている施設・設備について、計画的に修繕していく。	劣化により機能が著しく低下していた防犯カメラ等一式及び展示パネル一式を更新し、施設の安全性や快適性を高めることができた。	今年度内に「劣化度調査」を実施し、より計画的且つ効果的な施設の維持管理につなげる。
②	アンケート等により利用者のニーズを把握しながら、事業の充実について協議していく。	ホームページを新しくし、利用者サービス向上及び広報を強化し、なないろ広場事業や特別講演会等での参加者増につながった。	利用者アンケートや利用者懇談会等を通して利用者ニーズの把握に努め、講座内容の見直しや充実に活かす。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	区民の誰もが気軽に参加し、低廉な価格で良質な文化や学習を享受できる場を運営するため、継続して実施する。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-22	戦略プラン	○協働 ●業務 ○財務 ○人事
事務事業名	生涯学習センター管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名
		担当者名	内田	内線
	01-01-01	生涯学習センター管理運営費		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）				
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業	○それ以外の継続事業
開始年度	○昭和 ●平成	9年度	根拠	荒川区立生涯学習センター条例、同施行規則
終期設定	○有 ●無	年度	法令等	
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準	計画区分	○計画 ●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市	
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成	
	施策	12	生涯学習活動の支援	
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習意欲に応える機会をつくるとともに、生涯学習に関する相談、情報収集・提供等を行い、生涯学習の推進を図る。			
対象者等	区民一般 各種講座などは、18歳以上の在住・在勤・在学者を対象とする。			
内容	【開設】平成9年7月1日 【所在地】荒川区荒川3-49-1(教育センターと併設) 【土地面積】6,579.78㎡ 【延床面積】2,970.35㎡(4530.36㎡のうち) 【構造】鉄筋コンクリート4階建(うち1・3・4階部分) 【施設内容】小会議室4室(64㎡、30人程度)、大会議室(128㎡、80人程度)、音楽室(128㎡、40人程度)、多目的室(128㎡、60人程度)、学習室(64㎡、30人)、情報提供コーナー(64㎡)、体育館(700㎡)、多目的広場(3,486㎡) 【利用時間】午前9時～午後10時 【主な事業】区民カレッジ、専修学校の公開講座、IT講習会等			
経過	平成9～15年度 直営（一部業務委託） 平成16～17年度 施設運営等業務を(株)読売・日本テレビ文化センターに委託 平成18～23年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募、更新1回） 平成24～26年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募） 平成27～29年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（更新）  * 東日本大震災の影響による電力不足対策として、平成23年3月12日～5月15日の間、全館夜間利用の休止（全館）、体育館等は9月10日まで夜間利用の一部休止を行った。  【多目的広場の利用拡大】①平成26年下半年期 大人を含めた利用対象者の拡大を試行実施 ②平成27年上半年期～ 上記の試行期間を延長			
必要性	区民カレッジは定員を超える応募があり、区民の生涯学習に対する意欲が感じられる。生涯学習推進計画に基づき、生涯学習センターの各事業を充実し、生涯学習の一層の普及・啓発を行うていく必要性は高い。			
実施方法	(3委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員) 指定管理者：株式会社 読売・日本テレビ文化センター			

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算額	88,896	76,008	68,103	67,738	67,251	66,807
①決算額（28年度は見込み）		81,613	70,890	65,642	66,602	66,237	65,564	64,671
②人件費等		4,465	4,765	5,079	4,842	4,600	6,067	
③減価償却費		2,179	2,488	2,743	2,805	2,698	3,413	
【事務分担量】（%）		75	80	85	83	83	100	
合計（①+②+③）		88,257	78,143	73,464	74,249	73,535	75,044	64,671
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	20,204	5,225	243	240			
	一般財源	68,053	72,918	73,221	74,009	73,535	75,044	64,671
実績の推移	施設利用件数（多目的広場、PC室を除く）	6,967	6,845	7,073	7,280	7,350	7,344	-
	区民カレッジ（講演・講座数/回数）	11/50	9/57	13/67	12/57	11/54	11/53	-
	IT講習会（講座数）	51	41	51	50	51	51	-
	IT自習室利用数（人）	1,073	978	1,609	1,103	1,224	1,971	-

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	近隣協力員謝礼	48	報償費	近隣協力員謝礼	48	報償費	近隣協力員謝礼	48
委託料	指定管理料	54,550	委託料	指定管理料	53,467	委託料	指定管理料	53,371
使用料等	公有地賃借料	11,550	使用料等	公有地賃借料	11,758	使用料等	公有地賃借料	11,252
備品購入費	ワイヤレスアンプ	90	備品購入費	サッカーゴール	291			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 施設稼働率(%)	64	65	64	65	65	利用件数/利用可能数 (多目的広場、PC室を除く)
	② 利用者数(人)	131,565	174,090	170,758	175,000	175,000	延べ利用者数 (多目的広場、PC室を除く)
	③ 区民カレッジ受講者数(人)	3,580	3,921	3,853	3,950	3,950	延べ受講者数

問題点・課題 (指標分析)	①利用者アンケート等を踏まえて、サービス改善や施設の管理運営に反映し、稼働率の向上に取り組む。 ②施設・設備の老朽化が進んでおり、計画的に修繕を行っていく必要がある。 ③多目的広場は、子どもだけでなく大人等を含め利用対象者の拡大を試行実施しており、課題を整理して本格実施を進める。
	他区の実況 (実施 21 区 未実施 1 区 不明 0 区) 生涯学習センター、社会教育館、青少年センター等の生涯学習施設

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	利用者アンケート等を踏まえて、サービスの改善や施設の管理運営に反映する。	積極的な声掛けなど、接遇向上に努めた。利用者が体調を崩した際の職員の適切な対応によりあらかわMBA表彰を受けた。	利用者の声を反映できるよう、引き続き利用者アンケートや接遇研修等に取り組む。
②	老朽化の度合いを確認し、指定管理者とも協議しながら、計画的に修繕を進める。	定期点検の他、受水槽外装版亀裂の補修や蓋の交換、パソコン室のブラインドの交換等を実施。	安全・快適に利用できる施設を目指し、計画的な施設修繕や備品の管理に取り組む。
③	多目的広場の利用対象者拡大について本格実施を進める。	利用者拡大期間中はグラウンドゴルフサークル等の利用実績があった。	利用実態に見合った多目的広場の運用を進めていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	生涯学習の場を提供する拠点施設であり、継続して実施する。

況議 (要 会 質 問 状)	
-------------------------------	--



予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
賃金	臨時職員賃金	575	賃金	臨時職員賃金	726	賃金	臨時職員賃金	576
報償費	講師謝礼等	3,844	報償費	講師謝礼等	2,996	報償費	講師謝礼等	3,346
需用費	消耗品、印刷製本	1,478	需用費	消耗品、原状回復費用等	2,229	需用費	消耗品、印刷製本	2,056
役務費	教室移転に伴う荷物運搬等	549	役務費	移転運搬料等	555	役務費	電話料等	499
委託料	コミカレ特集号新聞折込委託等	451	委託料	セントラル荒川清掃費等	887	委託料	募集案内ポスター制作等	863
使用料等	会場使用料等	400	使用料等	セントラル荒川賃料等	13,046	使用料等	会場使用料等	633
備品購入費	デジタルカメラ、スクリーン	148	負担金補助等	セントラル荒川光熱水費	341	負担金補助等	サンパール荒川光熱水費等	3,770

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 修了生数（合計）	92	139	178	229	229	修了生の延べ人数
	② 修了後の活動割合（％）	90	90	90	90	90	活動に取り組む修了生／全修了生
	③ 新たに立ち上げた地域活動団体数	2	3	5	5	5	

（問題点・課題 指標分析）	① コミュニティカレッジの目的や役割を広く周知し、継続的に受講生を確保する必要がある。 ② より良い地域社会を築く担い手となる人材を育成していくため、受講生の知識、能力、経験、希望等、様々な要素を考慮し、ニーズに対応したカリキュラムの編成及び支援を行う必要がある。 ③ 受講生・修了生がコミュニティカレッジで学んだことを活かし、地域で主体的に活動できるような活動支援を行う必要がある。
	他区の実況 （実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区） 人材育成のための長期間の講座を実施している区。それぞれの区で目的や実施方法等が異なっており、全く同じ事業はない。

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	地域イベントへのブース出展等の効果を検証し、在校生・修了生の主体的な地域活動を積極的に支援しアピールする。	地域のイベントでのブース出展や、修了生の活動情報がわかる冊子の作成等を行い、コミュニティカレッジの周知につながった。	コミュニティカレッジの目的や活動について、より理解してもらうため、修了生の活動状況等を周知していく。
②	充実した地域活動につなげるために、関係課や関係団体等とのネットワークを拡大し、活動に関する情報提供等を行う。	学園祭や学習成果発表、講座等に修了生・区各部署が関わる機会を増やしたことにより、情報提供や連携強化につながった。	関係課や関係団体等と連携を密にし、ネットワークを広げることで、受講生に対して活動に関する情報提供を行う。
③	カリキュラムの内容等の見直しを検討する。また、受講生がより主体的に地域活動へ取り組むための支援を行う。	他区への視察や区民アンケートなどの情報収集を行い、カリキュラムの精査や開講時期（10月→4月）の見直しを行った。	受講生の希望や経験、能力などを考慮し、ニーズに対応したカリキュラム編成を行い、学習の支援をしていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	区民が学びの成果を活かして主体的な地域活動に参加できるように学習する場として、継続して実施する。

況 議 会 （ 要 旨 ） 問 状	・H24一定 町会との連携について ・H27.11月会議 現状と今後の展望、五周年記念誌の作成等について
---	---

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-01-03	戦略プラン	○協働 ●業務 ○財務 ○人事	
事務事業名	教育褒賞費	部課名	教育委員会事務局教育総務課	課長名	山本
		担当者名	本山	内線	3311
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-03-01	教育褒賞費			
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業 ●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 58年度		根拠	荒川区教育委員会褒賞要綱	
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区教育委員会褒賞施行細則	
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画 ●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市			
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成			
	施策	12 生涯学習活動の支援			
目的	教育・文化に関する行事や大会において優秀な成績を収めたことにより、荒川区の名を高め、教育に大きな影響を与えた児童、生徒、学校教育、社会教育関係者等に対し、教育委員会が褒賞を行う。				
対象者等	区内に在住、在学若しくは在勤する者又は区内の団体で、全国・関東・区レベルの大会、コンクール等において優秀な成績を収めた場合及び文部科学省後援検定等で卓越して優秀な成績を収めた場合等。				
内容	（褒賞の方法） ① 候補者の推薦 教育委員会事務局各課長、地域文化スポーツ部生涯学習課長、スポーツ振興課長、図書館課長及び荒川区立学校長が、候補者推薦書を委員会に提出する。 ② 褒賞の決定 荒川区教育委員会褒賞審査会の意見を聴いて被褒賞者の決定をする。 ③ 褒賞の方法 被褒賞者に賞状等を贈呈。原則として個人、団体につき各1枚又は1品とする。 ④ 褒賞の時期 対象者の年度の実績が把握できる3月に実施をしている。 【主な褒賞内容と件数（平成27年度）】 英検・数検・漢検 合格（上級学校卒業程度） 51名 図書館を使った調べる学習コンクール 上位入選 14名 卓球各種大会 上位入賞 10名2団体 フェンシング各種大会 上位入賞 3名				
経過	・平成8年度までは、刻印した楯を授与。 ・平成9年度より賞状と記念品（楯）を贈呈。 ・平成10年度以降は、簡素化を図り贈呈式を年1回（3月）とする。 ・平成13年度から区レベルの行事又は大会について、対象を3年連続優勝以上の者から3年・5年10年連続優勝を対象とし、10年連続時で最後とする。児童・生徒については、従前どおり。 ・平成14年度 審査会の構成の改正（教育委員及び事務局次長の職にある者から、部長、課（室、館）長のうち必要な職員に改正。				
必要性	褒賞することにより、教育・文化に関する行事や大会において受賞者の励みになる。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 贈呈式は二部構成で行う。 第一部 小学生文化・スポーツ部門 第二部 中高生成人文化・スポーツ部門				

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		577	691	852	857	767	535
①決算額（28年度は見込み）		537	601	480	448	428	499	679
②人件費等		1,744	2,541	2,478	2,495	2,318	1,844	
③減価償却費		581	933	968	1,014	975	1,024	
【事務分担当量】（%）		20	30	30	30	30	30	
合計（①+②+③）		2,862	4,075	3,926	3,957	3,721	3,367	679
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		2,862	4,075	3,926	3,957	3,721	3,367
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	子ども文化（小中学生受賞者数）	115	159	111	100	89	106	
	子どもスポーツ（小中学生受賞者数）	59	63	67	66	74	75	
	高校生・おとな文化（受賞者数）	12	11	12	15	18	24	
	高校生・おとなスポーツ（受賞者数）	23	21	27	31	21	32	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	丸筒購入・記念品等	395	需用費	丸筒購入・記念品等	461	需用費	丸筒購入・記念品等	624
使用料等	会場・付帯設備使用料	33	使用料等	会場・付帯設備使用料	37	使用料等	会場・付帯設備使用料	55

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 受賞率（%）	0.991	1.029	0.907	0.907	1.05	受賞者数÷区内小中高児童生徒数（4月1日現在）（個人）
	② 受賞数	34	31	57	57	60	小中高受賞団体数
	③						

（問題点・課題分析）	基準・記念品・式典運営等のあり方について検討しつつ、事業を実施する。
	（実施 18 区 未実施 4 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	地域文化スポーツ部と連携し、協力を得ながら、継続して実施する。	候補者推薦、贈呈式の進行等にあたっては地域文化スポーツ部と連携し、円滑に行うことができた。	引き続き、地域文化スポーツ部、学校長と連携し、受賞者数の増加を図る。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	児童・生徒及び区民の文化活動・スポーツ活動等を表彰する場として継続して実施する。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--